特集

番組で旬の県産やさい・花きを発信！

ＪＡ全農あおもり

ＪＡ全農あおもりは、５月から始めた青森テレビの新番組「Fresh Vegetable」で月２回程度（金曜日の夕方６時56分から約３分間）、県内のＪＡから旬の県産やさいや花きを発信している。

番組リポーターは我満紗千子さん。我満さんが生産者のほ場や選果施設を訪問し、生産者と対談しながら旬のやさいの魅力や、栽培ポイントなどについて紹介するもの。

7月23日放送
ＪＡつがるにしきた　～トマト～

７月９日、ＪＡつがるにしきたの組合員・佐藤敬道さんのほ場（五所川原市）で撮影を行った。

佐藤さんは「今年もいいものができた。味には自信がある」と意気込むとともに、栽培のポイントとして「灌水しすぎないように注意している。灌水を抑えれば、肉厚で味の濃いものができる」と紹介した。

放送内容はこちら

▲トマトを紹介する佐藤さん㊥

8月13日放送
ＪＡごしょつがる　～輪ギク～

７月27日、ＪＡごしょつがるの組合員・長尾憲さんのほ場（五所川原市）で撮影を行った。

長尾さんは「芽かき作業が一番大変だが、丈夫な花を作るために頑張っている。葉先が固いものが、丈夫な花のしるし」と紹介した。

放送内容はこちら

▲輪ギクを紹介する長尾さん㊨

8月27日放送
ＪＡつがる弘前　～ピーマン～

８月６日、ＪＡつがる弘前の組合員・棟方利明さんのほ場（弘前市）で撮影を行った。

棟方さんは「ヘタがきれいで六角形ものが美味

▲ピーマンを紹介する棟方さん㊨

しいピーマン」「同部会産は苦味が少ないので生のまま味噌をつけて食べるのがおすすめ」と紹介した。

放送内容はこちら

9月10日放送
ＪＡ十和田おいらせ　～ねぎ～

８月26日、ＪＡ十和田おいらせの組合員・小田正喜さんのほ場（十和田市）で撮影を行った。

小田さんは「土をしっかり寄せて光を遮断した栽培により緑と白がはっきり分かれたねぎができた」「ミネラルたっぷりの TOM-VEGE のねぎがおすすめ」と紹介した。

放送内容はこちら

▲ねぎを紹介する小田さん㊧

9月24日放送
ＪＡ青森　～トマト～

９月８日、ＪＡ青森の組合員・斉藤正紀さんのほ場（青森市）で撮影を行った。

斉藤さんは「トマトの状態に合わせた管理が大切。トマトの機嫌を損ねて味の悪いものにならないように、丁寧な管理に努めている」と紹介した。

放送内容はこちら

▲トマトを紹介する斉藤さん㊧

10月８日放送
ＪＡゆうき青森　～にんにく～

９月30日、ＪＡゆうき青森の組合員・甲地武人さんのほ場（東北町）で撮影を行った。

甲地さんは「美味しいにんにくを作るために、緑肥を用いるなど土づくりに力を入れている」と紹介した。

放送内容はこちら

▲にんにくを紹介する甲地さん㊧

10月22日放送
ＪＡ津軽みらい　～高冷地にんじん～

10月７日、ＪＡ津軽みらいの組合員・奈良優さんのほ場（平川市）で撮影を行った。

奈良さんは、栽培ポイントについて「土づくりに力を入れている。緑肥を用いて、土を１度休めるとまた元気になる」と話した。

放送内容はこちら

▲にんじんを紹介する奈良さん㊧

県内JAのニュースを紹介します

フラッシュ

ＪＡ青森

贈答用や傷有り品が人気
浪岡産リンゴ即売会開催（12／４・５）

ＪＡ青森りんご部は、同ＪＡ羽白野菜集出荷施設で2021年産リンゴの即売会を開いた。毎年恒例のイベントとあって、会場には朝から沢山のお客さんが来場し賑わいを見せた。当日はリンゴの試食を用意し、味を確かめたうえで購入してもらえるよう準備。買い物に訪れた市内の夫婦は「孫がリンゴ好きなので、毎年ここで購入するのを楽しみにしている。今年も無事購入できて嬉しい」と話した。

ＪＡつがるにしきた

シャインマスカット剪定講習会（12／２）

鶴田町大巻の下山勝明さんの園地でシャインマスカット剪定講習会が開かれ、生産者ら10人が参加した。西北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室の港大輔主幹が「登熟した枝を選び、凍害防止のため二芽残して剪定するように」など剪定のポイントをアドバイスした。

ＪＡつがる弘前

ラ・フランス食べて元気に／
特養ホーム利用者へ贈呈７回目（12／14）

ＪＡつがる弘前洋なし部会は、弘前市茜町にある特別養護老人ホーム「三和園」を訪れ、部会員が栽培した西洋梨「ラ・フランス」５ケースを贈った。今回が７回目となる。同園の大井康敬園長は「ラ・フランスは甘く、なめらかな食感でとても美味しい」と話した。贈呈されたラ・フランスは、完熟するまで２週間程度置き、利用者100人で食べるとのこと。

ＪＡごしょつがる

メロン販売報告／高値へ意気込み（12／９）

ＪＡごしょつがるメロン部会は、2021年産メロンの販売報告会を開き、部会員91人と関係者15人が出席し、来年に向けた生産への意識統一を図った。来賓の青森合同青果株式会社の中村瞬果実課課長代理は「コロナ禍により人の動きが減った分、ギフトが動いている。最高の腕を持つ皆さまに来年も出荷してもらいたい」と期待を込めた。今年のメロンは、最高品質のプレミアムと格付けされたメロンが、「タカミ」では4.4%出荷できたことを報告した。

ＪＡ相馬村

正月に向けて餅つき大会（12／22）

弘前市の相馬こども園で餅つき大会が開かれ、年長組13人とＪＡ相馬村青年部員８人が参加した。もち米は、青年部員が栽培したものを使用。大変そうに餅をつく園児に周りから大きな声で「頑張れー！」「ヨイショ！」の声援があがった。青年部副部長の溝江翼さんは「去年は新型コロナの感染防止の為出来なかったが、今年はやることができ、園児たちの笑顔と元気な声を聴くことが出来て嬉しい。来年も楽しみにしています」と話した。

ＪＡ津軽みらい

正月用のおしゃれなしめ縄（12／13）

ＪＡ津軽みらいは、本店で正月飾り教室を開き、30人が参加し、おしゃれしめ縄を作成した。インターフローラルデザイン協会アーティストの三橋全子さんが講師を務め、おしゃれしめ縄の作り方などを説明。受講者は、好きな色のしめ縄を１つ選び、三橋さんから作り方を教わりながら花や葉の形をした装飾品やリボンを飾りつけした。

ＪＡ十和田おいらせ

十和田おいらせのおにぎりNo.１が決定
管内のおいしさギュッと（12／13）

ＪＡ管内農畜産物の消費拡大に向けて、職員がアイデア満載のおにぎりレシピを考案。ＪＡ十和田おいらせ部署別対抗「おにぎりNo.１決定戦」を開き地域住民から2,213票の投票が寄せられ、藤坂支店が考案した「トムベジさんの優しいおむすび」が221票を獲得し優勝した。レシピを考案した藤坂支店の苫米地有子係長は「ニンニクを入れるとご飯に甘みが出て具材の味を引き立てる。大切な家族にぜひ作ってほしい」とアピール。全てのおにぎりレシピはＪＡホームページで公開している。

ＪＡゆうき青森

地元産キャベツ学校給食へ提供　感謝状授与（12／13）

中部上北広域事業組合は、ＪＡゆうき青森野菜振興会キャベツ部門が地元産キャベツを学校給食へ提供したことに対し、同部門と乙部組合長に感謝状を贈呈した。11月に東北町、七戸町の小中学校の学校給食へ管内で栽培されたキャベツ計170kgを提供。キャベツ部門長の乙部暁さんは「子どもは地域全体で育てるものだ。今後もこれを糧に農業も部門活動も頑張っていきたい」と話した。

ＪＡおいらせ

高い品質と色白のニンニクをＰＲ（12／16）

ＪＡ全農あおもりが５月から始めた青森テレビの番組「Fresh Vegetable」の撮影が三沢市で行われ、ＪＡおいらせやさい推進委員会三沢地区ニンニク部会長の種市精一さんがニンニクを紹介した。番組リポーターの我満紗千子さんと青森いきいきやさいレディの工藤泉紀さんとともに種市さんがニンニクの魅力を伝える。今回撮影した内容は、１月14日、夕方６時56分に放送予定。

ＪＡ八戸

女性部　しめ飾り作り（12／９）

ＪＡ八戸女性部豊崎地区は、ＪＡ八戸旧豊崎支店でしめ飾りを作り、10人が参加した。市川地区の部員２人が講師を務め、今年３回目となるしめ飾り作りは、部員が手慣れた様子で、稲藁によりをかけてしめ縄を作った。鯛、扇や七福神などを飾り完成。部員は「久しぶりに部員と集まったので楽しく作ることができた。作ったしめ飾りで新年を明るく迎えたい」と話した。

JA青森中央会 information

第46回青森県ＪＡ青年大会

青森県農協青年部協議会は12月２日、青森市の県農協会館とウェブ会議システムで県ＪＡ青年大会を開いた。県内９ＪＡから60人が参加した。「ＪＡ青年部活動実績発表」部門でＪＡつがる弘前の石岡孝規さん、「ＪＡ青年の主張発表」部門でＪＡ十和田おいらせの古舘弘崇さんが最優秀賞に輝いた。２人は来年１月13日開催の東北・北海道ブロック青年大会に進む。

石岡さんは、青年部員の健康意識向上のために、保健師を招いて、食生活の見直しをはじめとする生活習慣の見直しを行った。古舘さんは、週７日のうち３日は農業、４日は自動車整備士として働く「七三農家」。いずれの業界も後継者不足が課題であるため、農家と整備士の「二刀流」で生きていくと力強く述べた。

同協議会の成田啓輔委員長は「発表者の活動報告や主張を基に、農業政策など県青協の活動に生かしていきたい」と述べた。

なお、同大会では全青協主催の「手づくり看板コンクール」「ＰＲ動画」の表彰も行った。

入賞作品は次のとおり。

◇手づくり看板コンクール　▽最優秀賞＝ＪＡ十和田おいらせ上北支部、▽優秀賞＝ＪＡ十和田おいらせ十和田湖支部、▽優良賞＝ＪＡ十和田おいらせ七戸支部

◇ＰＲ動画　▽最優秀賞＝ＪＡ相馬村№２、▽優秀賞＝ＪＡ相馬村№１、▽優良賞＝ＪＡおいらせ青年部

▲カメラの前であいさつする成田委員長

神さんに栄誉！　2021年度青森県家の光大会

ＪＡ青森中央会と県ＪＡ女性組織協議会は12月８日、県農協会館とウェブ会議システムで、青森県家の光大会を開いた。県内10ＪＡから250人が参加した。記事活用体験発表では、ＪＡつがる弘前女性部の神礼子さんが最優秀賞に輝いた。所有する「神さんのプチ畑」で、野菜、果物、ハーブの収穫体験や石窯を使ったピザ作りを受け入れている他、町の交流型婚活支援事業の場所としても提供しているなど、地域の場となっていることを紹介。『家の光』は企画記事を穴が開くほど読むなど、その取り組みや発表が総合的に評価された。

記念講演では、行政書士で社会人落語家の生島清身（天神亭きよ美）さんが、『「天国からの手紙」＋人生笑顔で笑ンディングノート』と題して、リモート講演を行った。

なお、同大会では、家の光三誌の普及・活用優良表彰も行われた。

各賞については、次のとおり。

▽『家の光』高率普及優良ＪＡ表彰＝相馬村、おいらせ、八戸

▽『家の光』12月号普及優良ＪＡ表彰＝青森、ごしょつがる、津軽みらい、ゆうき青森、おいらせ

▽『ちゃぐりん』８月号普及優良ＪＡ表彰＝青森、つがるにしきた、ごしょつがる、相馬村、津軽みらい、おいらせ

▽「家の光図書」普及優良ＪＡ表彰＝津軽みらい

▽「家の光三誌」普及・活用優良団体表彰　女性部部門＝青森、つがるにしきた、ごしょつがる、つがる弘前、津軽みらい、十和田おいらせ、ゆうき青森、おいらせ、同賞青年部部門＝つがる弘前、おいらせ

▲最優秀賞に輝いた神さん㊥

茂木幹事長との意見交換会

自民党の茂木敏充幹事長と若手農漁業者や観光業者らとの意見交換会が12月11日行われ、県農協青年部協議会と県ＪＡ女性組織協議会から６人参加した。ＪＡ女性組織協議会の成田縫子会長は「女性部員の減少が著しい。農業収入が確保でき、魅力ある職業として受け止めていただけるよう国の様々な支援を手厚くお願いしたい」と要望した。

また、青年部協議会の成田啓輔委員長は「リンゴの高密植栽培は初期費用がかかる。補助金制度はあるが、予算が足りていない。意欲的に取り組めるよう予算の確保と恒久化を図っていただきたい。」と訴えた。

茂木幹事長は「農業や漁業、中小企業などに様々な支援を講じていく。また、機械化やデジタル化も進めていきたい。併せて、長期的な視点で

▲茂木幹事長㊧と意見交換する成田会長（青森市で）

事業が実施できるよう環境整備に取り組んでいきたい」と述べた。

第40回青森県「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール表彰式

ＪＡ青森中央会は12月12日、青森市のホテル青森で、青森県「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール表彰式を開いた。作文部門で附田紗奈さん（十和田市立藤坂小学校５年）の「じいちゃんの田んぼと雷」、図画部門で宮守杏寿さん（おいらせ町立木ノ下小学校１年）の「わたしのさいっこうのおにぎり」が最高賞の県知事賞に輝いた。

附田さんの作品は、米作りに励む祖父を笑顔で囲む家族の様子が思い浮かぶ内容で、これからの米作りへの希望を感じさせる作品として評価された。

宮守さんは、本人が大きく口を開けて、大きい三角おにぎりを食べようとした瞬間をのびのびと描き、細かく丁寧に楽しく表現した作品として評価された。

21年度は作文部門で227点、図画部門で263点の応募があった。

その他、入賞作品は次のとおり。

▽教育長賞　作文部門＝野里匡汰さん　図画部門＝蛯名真稀さん

▽青森県農協中央会会長賞　作文部門＝久保田菜々子さん　図画部門＝鳴海星さん

▲集合写真を撮る参加者

◎営農指導員スキルアップ研修会（兼営農指導員資格認証指定研修会）農産物マーケティングの基礎理論と実際

ＪＡ青森中央会は12月14日、ＪＡ青森中央会教育研修所で営農指導員を対象とした研修会を開いた。弘前大学農学生命科学部の成田拓未准教授が講師を務め、農産物マーケティングの基礎理論について講義した。

▲講義する成田准教授

成田准教授は、リンゴを事例に、日本全体で2005年あたりでは、果実市場が成熟期から衰退期に入り、国内消費仕向量、国内生産量がともに減少し、輸入のみが増加傾向、生鮮・果汁（加工）の両方で消費量が減っていることを指摘した。消費傾向の一つに、若年層による消費は減り、一方で年を重ねるごとに消費は増えたとし、いかに果実需要を取り込むかが大事であり、不特定多数の顧客をターゲットにするのではなく、特定少数への顧客との関係性を深め、長期的な取引を実現していく重要性を説いた。

次世代リーダー育成研修会「修了レポート発表会」

ＪＡ青森中央会は12月16日、ＪＡ青森中央会教育研修所で、次世代リーダー育成研修会のレポート発表会を開いた。発表会には県内８ＪＡから25人が参加した。発表者９人の中で、見事、最優秀レポートに輝いたのは、ＪＡゆうき青森金融課の種市大係長。種市係長は、「選ばれるＪＡであるために」と題してプレゼンをした。販売戦略として、小売店や飲食店に直接取引の割合を増やす、または、ＪＡ販売戦略室を利用して営業のプロを育てるプランを説明した。

なお、優秀賞は、ＪＡつがる弘前金融課の平川智浩係長、ＪＡおいらせ販売課の種市雄治課長代理が受賞した。

▲最優秀レポートに選ばれた種市さん㊨

行事（１／10～２／10）

１月

12日	県参協定例会（県農協会館）
12～13日	管理者研修会（第２回）（教育研修所）
19日	新採用職員フォロー研修会（県農協会館）
20日	第２回きらきらサークル研修会（県農協会館）
20日	臨時理事会（県農協会館）
25～26日	監督者研修会（第２回）（ＪＡ津軽みらい）
28日	営農指導員認証試験（教育研修所）
28日	令和３年度退職準備セミナー（県農協会館）

２月

３日	令和３年度第２回内部監査士検定試験（県農協会館）
８～９日	初級職員研修会（第２回）（教育研修所）
９日	県参協定例会（県農協会館）

JAバンク青森 information

『ＪＡスマホ教室』を開催します！

ＪＡバンクでは、地域の利用者・組合員への貢献および関係性深化の取組みの一環として、ＮＴＴドコモおよびソフトバンクと連携して「ＪＡスマホ教室」を開催し、スマートフォン初心者等の利活用をサポートする。

ＪＡスマホ教室は、携帯電話会社のスタッフが講師となり、スマートフォンの基本的な操作からアプリの便利な活用方法まで、実際にスマートフォンを使いながら楽しく学ぶことができる。受講料は無料で、参加には事前予約が必要。

また、ＪＡバンクが提供している「ＪＡバンクアプリ」や「ＪＡネットバンク」のご利用を希望する方には、ＪＡ職員が初期登録のサポートも行う。

2021年度は、1月にＪＡゆうき青森、２月にＪＡ八戸で開催予定。

開催日程等の詳細は、各ＪＡの広報誌や窓口等でご確認いただきたい。

ＪＡカードのデザインが変更になります！

ＪＡカードでは、2022年１月よりキャラクターカードのデザインをサザエさんから「よりぞう」へ変更する。

よりぞうカードの新規申込みは、2022年１月12日から受付を開始。「地球」「リーフ(単体型のみ)」「よりぞう」の３種類の中からお好きなデザインを選択することができる。

既にサザエさんカードをお持ちの方については、2022年１月末に有効期限を迎えるカードから、順次よりぞうカードに切り替わる。

よりぞうカードのデザインは次のとおり。

ＪＡカードの新規お申込みは、お近くのＪＡ窓口または以下のＪＡバンクＨＰまで。
＜ＷＥＢ申込み専用サイト（単体型のみ）＞
（https://www.jabank.org/tsukau/jacard/）

行事（１／10～２／10）

農林中央金庫

１月

12日	青森県ＪＡ信用担当部課長会議（県農協会館）
13日	信用事業業務検定試験対策研修（ＪＡバンク年金アドバイザー）（県農協会館）
18日	ＪＡバンク青森運営協議会専門委員会（県農協会館）
23日	ＦＰ技能検定・金融窓口サービス技能検定（各会場）
25日	2021年度第３回証券外務員資格試験・内部管理責任者資格試験（県農協会館）

２月

５日	第50回信用事業業務検定試験（県農協会館）
８日	青森県ＪＡ信用担当部課長会議（県農協会館）

ながいも販売対策会議

ＪＡ全農あおもりは11月22日、青森市のアップルパレス青森で令和３年産ながいも販売対策会議を開き、全国各地区の青果会社や県内ＪＡの代表者らが出席。ながいもの有利販売に向けた取組みや作柄状況を共有するとともに、販売対策について協議した。

３年産の販売計画数量については、前年産を25万ケース下回る、230万ケース（１ケース10キロ、前年比90%）に設定したことを報告した。

３年産の作柄は細長く、曲がりやリングが散見されＡ品が平年より少ない見通し。このことから、収量が前年・平年を下回ると予想される。

コロナ禍を経て消費形態が変容し、フードデリバリーやｅコマース、冷凍食品等の簡便性のある内食需要が定着した。これらの消費形態に対応し、量販店・業務向けの販売強化を進めていく。発生割合の高い４Ｌ・３Ｌ級およびＣ品の予約相対取引の拡大や、産地パック品の企画販売を重点に取り組む。

また、１月の「３日とろろ」や６月の「麦とろの日」に向け、首都圏の公共交通機関と量販店を連動させた広告掲示等を実施し、消費拡大を図ることとした。店頭における試食宣伝会も、新型コロナウイルスの状況を鑑みながら進めていく。

全農あおもりの桑田徳文県本部長は「外食需要は回復しつつあるが、消費形態が変わってきている。販売環境の変化を見極めながら有利販売に繋げていきたい」と出席者らに向けて協力を求めた。

▲協力を求める桑田県本部長

中・晩生種りんご販売対策会議

ＪＡ全農あおもりは11月25日、青森市のホテル青森で「令和３年産中・晩生種りんご販売対策会議」を開いた。全国各地区の青果会社や県内ＪＡから代表者らが出席し、販売計画および対策について報告し、目標達成に向けて取引会社に対し一層の協力を求めた。

主力品種「ふじ」の出荷計画は、無袋555万ケース（１ケース10キロ、前年比75%）、有袋63万ケース（同、前年比83%）に設定された。

販売対策として、透過型品質センサー活用による品質管理の徹底や、贈答需要や輸出向けへの積極的な対応に加え、発生割合が高い小玉果・下位等級品について積極的な企画提案を推進し、年明け以降の売場確保に努めることとした。

本年産の生育は、春先の霜害等の影響で数量は少ないが、糖度・着色ともに平年を上回り良好な仕上がり。その反面、サビや小玉果の多さも懸念される。

全農あおもりの桑田徳文県本部長は「前進出荷・品質管理の徹底を基本としながら、発生が多い下位等級品の企画販売にも積極的に取り組む。国内外ともに安定的な売場確保に努めていきたい」と協力を呼びかけた。

▲青果会社に協力を求める桑田県本部長

イオン南関東で「青森県フェア」を開催

青森県とイオンリテール㈱は11月23日から30日までの８日間、イオンリテール南関東カンパニー69店舗で「青森県フェア」を開いた。安全・安心なあおもり産品の情報発信および消費拡大を図るもの。

28日、東京都板橋区のイオンスタイル板橋で開かれたイオンリテールと県との情報交換会では、三村申吾青森県知事ほか関係者らが県産品愛用を呼びかけた。ＪＡ全農あおもりの笹森俊充副本部長は「今年の秋の味覚も、美味しくできた。青森米『まっしぐらはカレーによく合う米』をキャッ

チコピーに、多くの人に食べていただきたい。りんごやながいもは数量は少ないが美味しい仕上がり。その美味しさを実感してもらいたい」と意気込んだ。

一部期間中、食品売場では、三村知事による県産品ＰＲ動画や、食材の魅力を発信する調理動画を放映した。また、買物客へ青森米を使用したおむすびやカットりんご、ながいもの漬物等を試食として提供し、県産品をＰＲした。

このほか、ミニねぶたの展示やりんごセリ市再現コーナーを展開し、フェアを盛り上げた。

▲県産品をＰＲする関係者ら

やさい防除試験展示ほ総合検討会

ＪＡ全農あおもりは12月１日、青森市の県農協会館でやさい防除試験展示ほ総合検討会を開き、県やＪＡ担当者ら19人が出席。令和３年度の試験展示圃における病害虫発生状況や農薬散布状況について情報共有するとともに、次年度の防除暦について協議した。

本検討会は２年度からの取組みで今年が２年目。防除指導体制の強化を図ることで、主要やさいの高品質・安定生産を目指すことを目的としている。

今年度は昨年度実施のながいも・ねぎ・トマトに加えてごぼう・にんにくを追加した全５品目の試験圃場を県内のＪＡ管内に設置。出席した各ＪＡ担当者からは担当試験圃場の病害虫発生状況および防除指導内容について報告があり、効果的な薬剤散布方法など意見交換を行った。

品目毎の新剤で防除効果が高かったものについては次年度の防除暦へ採用とし、効果があまり見られなかったものは散布回数・時期の調整や他薬剤との併用を検討しながら防除暦へ採用することとした。

全農あおもり生産振興部の沼田友行次長は「試験展示圃を活用することで、更なる防除知識の向上と指導体制の強化を図っていきたい」と協力を求めた。

次年度はだいこん・にんじんの２品目を追加した全７品目で実施し、防除暦の作成に役立てる。

▲挨拶する沼田次長

ラジオ番組で「青天の霹靂」をＰＲ

ＪＡ全農あおもりは12月４日、ラジオ番組「ＪＡ全農 COUNTDOWN JAPAN」で７年連続特Ａを取得している青森米「青天の霹靂」の魅力を発信した。

番組では「青森県で初めて最高ランクの特Ａを取得した品種。ほどよいツヤとやわらかな白さが特徴で、粘りとキレのバランスがいい、上品な甘みの残る味わい」などと紹介した。

ゲストに声優の鈴村健一さんを迎え、パーソナリティとともに鮭おにぎりと塩むすびを試食した。「つやつやで一粒一粒がしっかりしていて美しい」「特Ａのお米パワーで頑張れそう」などと好評であった。

番組側から、視聴者プレゼントとして「青天の霹靂」５キロを３名様に贈った。

同番組は、ＪＦＮ38局ネットの音楽生放送番組。毎週土曜日13時から放送している。週替わりで著名なゲストを迎え、トークを交えてランキング形式で紹介。番組内でＪＡタウン商品をパーソナリティが試食してＰＲするとともに、視聴者プレゼントも用意する。

▲商品をＰＲするパーソナリティ

JA共済連青森 information

共済担当部課長会議の開催

ＪＡ共済連青森は、12月２日に青森市浅虫「海扇閣」において共済担当部課長会議を開催した。

本会議は、令和３年度推進総合目標ならびに共栄火災商品目標達成に向けた取組みの確認・共有と併せて、令和４年度から６年度ＪＡ共済３か年計画および令和４年度事業計画・業務計画の協議を行うことを目的として開催された。

まず、沼田博文副本部長から開会の挨拶があり、全国本部東北・北海道地区担当の島津幸人部長より全国普及推進状況等について情勢報告が行われた。

会議では、①令和３年度推進総合目標達成に向けた今後の取組みについて②令和４年度から６年度ＪＡ共済３か年計画（素案）について③令和４年度事業計画書（素案）について④令和４年４月実施予定の予定事業費率の見直し（案）について⑤令和４年度業務計画書（素案）について⑥令和４年４月実施予定の仕組改訂等（案）について⑦青森県における共済事業実施体制整備に向けた次期３か年の取組みについて⑧令和４年度ＪＡ普及推進活動計画策定にかかる支援について⑨令和３年度共栄火災商品目標達成に向けた今後の取組みについて、説明および協議が行われ、出席者からの質疑応答を交えながら積極的な協議・検討が行われた。

▲挨拶を行う沼田博文副本部長

ＡＩ顔認証検温サーモカメラシステムの感謝状贈呈式

ＪＡ共済連青森は、12月３日に十和田市役所（十和田市教育委員会）、三戸町役場（三戸町教育委員会）、12月17日に八戸市庁本館（八戸市教育委員会）において、ＡＩ顔認証検温サーモカメラシステム一式（自動消毒噴霧器付スタンド付）の寄贈に対する感謝状の贈呈式が行われた。

この活動は、地域貢献活動（健康管理・増進活動）の一環として学校生活における新型コロナウイルス感染症の感染リスクを少しでも排除できるよう、県内の小・中学校（特別支援学校含む）に寄贈されたものである。

十和田市教育委員会丸井英子教育長は「今までは、教諭が手で測る非接触型の体温計を使用していたので、自動で体温を測れて大変便利です。早速、学校で活用させていただきます」とお礼を述べＪＡ共済連青森福士雅巳本部長へ感謝状が手渡された。

同様に、三戸町教育委員会、八戸市教育委員会からも感謝状の贈呈が行われた。

▲十和田市役所での贈呈式の様子

▲三戸町役場での贈呈式の様子

▲八戸市庁での贈呈式の様子

ＪＡ共済自動車指定工場協力会経営者研修会の開催

ＪＡ共済連青森は、12月10日に青森市浅虫「海扇閣」において指定工場協力会員を対象にＪＡ共済自動車指定工場協力会経営者研修会を開催した。

初めにＪＡ共済自動車指定工場協力会久慈広隆会長から「講師として有限会社伊倉板金塗装工業、伊倉大介社長をお呼びした。昨年４月に施行された特定整備制度や今後導入されるＯＢＤ車検など、従来の整備技術だけでは切り抜けることができない問題について解決のヒントをいただきたい。この研修会が、今後の我々の将来を見据えた一助になればと考えている。」と挨拶があった。

研修会では、①情勢報告、②伊倉大介氏による講演、③自動車指定工場にかかる各種連絡等が行われた。

伊倉大介氏は「自動車整備工場にいま必要なこと」と題し、①今後の市場と青森県の市場規模②今後の事業承継の形③今後の設備投資について④今後の自動車関連事業について講演を行った。

参加者は、今後の自動車業界について真剣に考え研修会に取組んでいた。

▲講演を行う伊倉大介氏

ＪＡ共済ヘルスアップ講座の開催

ＪＡ共済連青森は、12月15日に弘前市ホテルニューキャッスルにおいて組合員とその家族および地域住民を対象に、ＪＡ共済ヘルスアップ講座を開催した。

この講座は、平成30年度から地域貢献活動（健康管理・増進活動）の一環として実施しており、健康に関する講演およびヘルスチェックを通じて、健康維持、管理に対する意識の高揚を図り、併せて、笑いが健康に与える効果に着目し、笑いと健康に関するイベントを実施することで健康づくりに寄与することを目的として開催された。

初めにＪＡ共済連青森福士雅巳本部長から「みなさんが感染対策を徹底してくれているおかげでコロナ感染者も減り開催することができた。ヘルスアップ講座の合言葉は、みんな元気に笑顔で暮らそうである。この講座を終えてみなさんが帰る際により元気になり、明日から今まで以上に笑顔で暮らしていけることを祈願します。」と開会の挨拶があった。

講座では、ＪＡ共済がＪＡ女性組織の健康づくりのために開発した「ＪＡ共済レインボー体操」を楽しく体験し、その後、弘前大学大学院医学研究科社会医学講座特任教授の中路重之氏による「短命県をどのようにして返上するか～カギを握るのは健康への知識～」と題した講演とヘルスチェックが行われた。

昼には青森県産食材をふんだんに使用した彩り豊かな「ＪＡ健康寿命100歳弁当」を提供した。

午後は、日本整形外科学会理事・青森県立中央病院整形外科統括部長の伊藤淳二氏による「骨の健康診断～ロコモ・骨粗鬆症と骨折について～」と題した講演とヘルスチェックが行われた。講演終了後にはテレビでお馴染みの落語家月亭八方氏の落語により会場は参加者の笑顔で溢れていた。

また、会場付近に「健康づくりブース」を設置し、「立ち上がりボックス・血圧計・体組成計・握力計」で、自身の健康状態を確認する参加者がたくさん見受けられた。

講座を終えた参加者は「どのように健康に気を付けていけばいいか具体的に分かった」、「コロナ禍での久しぶりのイベントで楽しかった」、「落語がとても面白くたくさん笑った」など楽しんでいる様子だった。

なお、今後は、令和４年１月26日に三沢市きざん三沢で令和３年度第３回目の講座を開催する予定である。

▲伊藤淳二先生による講演の様子

行事（１／10～２／10）

１月

26日　ＪＡ共済ヘルスアップ講座（きざん三沢）

東北農政局通信
あおもり

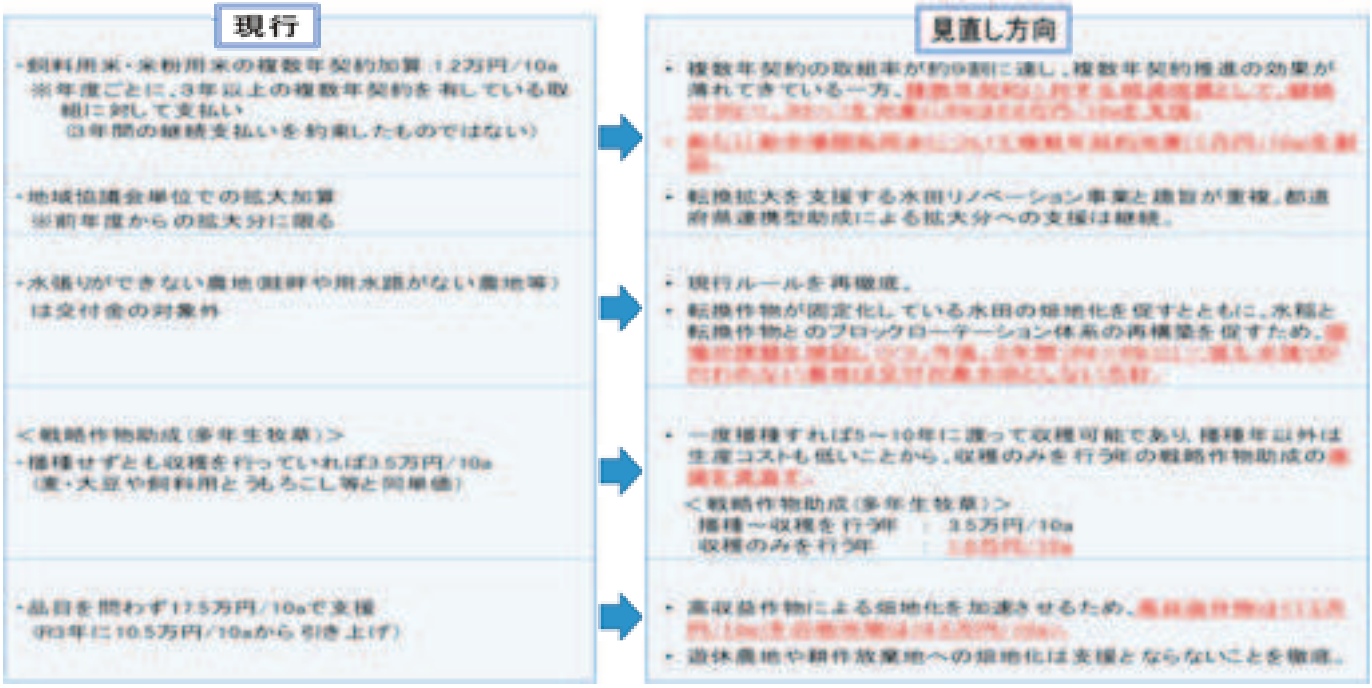
連絡先
東北農政局青森県拠点
地方参事官室
TEL：017-775-2151

MAFF
農林水産省

令和４年産における水田活用の直接支払交付金・水田リノベーション事業の拡充・見直しの方向について

【水田活用の直接支払交付金の見直しの方向について】

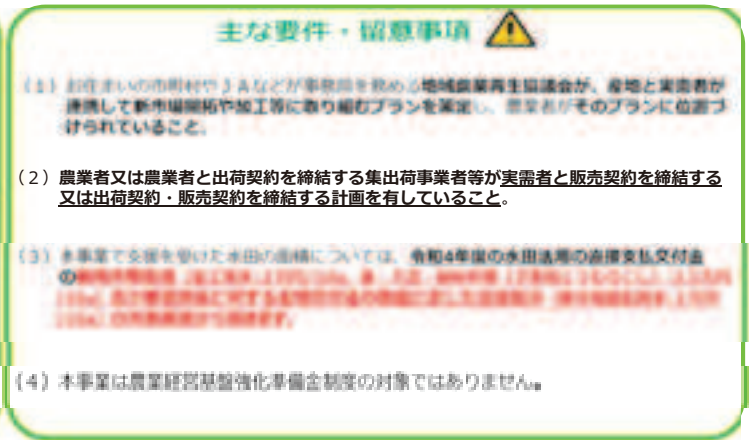
・令和３年産の主食用米の作付面積は、前年比で6.3 万haと過去最大規模の減少となったところです。
・主食用米の減少面積のうち、飼料用米への転換が4.5万haと全体の７割以上を占め、麦・大豆等の品目への転換の取組は、さほど進まなかったところです。令和４年産では、麦・大豆や高収益作物等、飼料用米以外の品目にも取り組んでいただけるよう、令和４年度における水田活用の直接支払交付金の見直しの方向について、お知らせします。



【新市場開拓に向けた水田リノベーション事業】

（うち低コスト生産等の取組支援 予算額：410億円）のご案内

令和３年度補正予算（前倒し支援）において、輸出や加工品原材料等の需要拡大が期待される品目の生産拡大に向け、低コスト生産等に取り組む生産者を支援することとしています。あわせて、対象作物に労働生産性の高い子実用とうもろこしを追加し、生産者への作付転換の選択肢を拡大するとともに、生産者向け支援の予算規模を令和３年産よりも大幅に拡大し、より多くの取組を支援することとしています。



令和４年産の主食用米の生産についても、需要に応じた生産となるよう、麦・大豆、高収益作物等、水稲以外の作物への作付転換をお願いします。

【特別企画】

2021年を振り返る

青森県の農業・ＪＡ主要ニュース

2021年は、延期となっていた東京オリンピック・パラリンピックが史上初の無観客という環境のもとで実施された。特に東京オリンピックでは、過去最高の金メダル27、銀メダル14、銅メダル17の計58個のメダル獲得でテレビやネットを中心に国民を歓喜させた、と同時に新型コロナウィルス感染症が爆発的に感染拡大し、多くの犠牲者が出た。幸いにもワクチン接種が進むにつれて11月中旬からは飛躍的に感染者が一日あたり全国で100人以下となるなどこの改善状況を踏まえ現在様々な緩和措置がとられている。

このような中、2021年の本県農業・ＪＡを振り返ると、春先の凍霜害の影響を受けりんごは一部小玉果が多かったと報道された。米については、新型コロナの影響を受け需要が伸び悩み、「つがるロマン」「まっしぐら」の概算金は、いずれも20年産より3,400円と大幅な下落となり、各自治体や国会議員への緊急要請が行われた。

また、農家の人手不足対策には、昨年に引き続き他業種職員による農業応援活動が継続的に行われた。

1月

●リニューアルしたホームページで情報発信（１／14）写真1

ＪＡ青森中央会は１月から、県内の農畜産物・イベント・農政情報などを積極的に発信するため、公式ホームページ（ＨＰ）を全面リニューアルした。これまでのレイアウトやデザインを一新して見やすくした。

2月

●自己改革推進会議（２／18）

ＪＡ青森中央会は、青森市で「ＪＡ自己改革推進会議」を開き、ＪＡの担当常勤理事、幹部職員など20人が出席した。ＪＡ全中ＪＡ改革推進課の山田剛之課長が、①規制改革推進会議等の動向②自己改革にかかる当面の課題と取り組み③ＪＡグループにおけるＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）の取り組みについて説明した。

3月

●令和２年度青森県家の光大会（３／１）写真2

青森県ＪＡ女性組織協議会とＪＡ青森中央会は、青森市の県農協会館で「令和２年度青森県家の光大会」を開き、県内の女性部員90人が参加した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加者全員がフェイスシールドを着用し、大会スローガンを確認するとともに県内の「家の光」など普及活動運動に積極的に取組んだＪＡを表彰した。

3月

●ホームページをリニューアル（３／３）写真3

ＪＡ全農あおもりは、ホームページをリニューアルした。見る人に明るい気持ちになって欲しい、という願いを込め、全農あおもりのメッセージ「四季の美味しさを届けたい」と、四季ごとの変化を楽しめる内容とした。

4月

●交通安全ラッピングバス運行式の開催（４／６）写真4

ＪＡ共済連青森は、弘前市弘南バス弘前営業所においてＪＡ共済ラッピングバスの運行式を行った。運行式では、ＪＡ共済連青森の福士本部長が「地方の方々の交通安全に対する意識向上と交通事故の未然防止に貢献したい」と挨拶。運航の無事を祈って県警、県交通安全協会、弘前交通安全協会、弘南バスらによるテープカットが行われた。

●第68回通常総会　青森県農協青年部協議会（４／９）写真5

青森県農協青年部協議会は、青森市内で通常総会を開き、役員およびＪＡ青年部長など30人が出席した。20年度の活動報告や21年度の活動計画等について承認。ＪＡつがる弘前青年部の成田啓輔さんを新たに委員長に選任した。

1

2

3

4月

●第67回ＪＡ女性協通常総会（４／20）

写真6

青森県ＪＡ女性組織協議会は、青森市の県農協会館で第67回通常総会を開き、90人が参加。2021年度は、３カ年計画「ＪＡ女性　地域で輝け　50万パワー☆」の実践最終年度として、仲間づくりやＪＡ運営への参画に取組み、組織強化につなげる。20年度に引き続き会長に就任した成田縫子さんは「今回の役員改選ではほとんどが入れ替わった。新役員と共に新しい風を吹かせていきたい」と述べた。

5月

●「第２回青森いきいきやさいレディコンテスト」最終審査（５／８）写真7

ＪＡ全農あおもりは、青森市のホテル青森で２回目となる「青森いきいきやさいレディ」コンテストの最終審査を行い、鰺ヶ沢町の工藤泉紀さんと青森市の八木澤美咲さんの２人が選ばれた。工藤さんと八木澤さんは、令和３年６月１日から令和５年６月30日まで25ヶ月の任期で県産やさい・花きのＰＲを行う。

●石塚選子さんを会長に選任／青森県農協生活指導員連絡協議会通常総会（５／19）写真8

青森県農協生活指導員連絡協議会は、県農協会館で通常総会を開き、県内ＪＡの生活指導員ら25名が出席した。役員改選では、会長に石塚選子さん（ＪＡゆうき青森）、副会長に三橋美幸さん（ＪＡつがる弘前）を選任した。

5月

●ＪＡバンク青森　2020年度県域表彰（５／19）写真9

ＪＡバンク青森では、新型コロナウィルス感染拡大の影響で「2021年度ＪＡバンク青森推進大会」の開催中止を受けて、表彰式を上位入賞を果たしたＪＡで行った。優績ＪＡ表彰最優秀賞を受賞したＪＡ十和田おいらせには、農林中央金庫青森支店清水支店長から表彰状と目録が贈呈された。

6月

●県産米で学生を支援（６／１）写真10

ＪＡグループ青森と青森県農協農政対策委員会は、青森市の青森県立保健大学で県産米の贈呈式を開いた。新型コロナウイルス感染拡大の影響で経済的な影響を受けている大学生・大学院生を対象としており、申込者全員に青森県産米（２kg）を贈った。この取組みは青森県内の11大学の大学生・大学院生を対象に、2020年度に続き実施したもので5,000人の申し込みを見込んでいる。

●「麦とろの日」ＰＲ動画を放映（６／16）写真11

ＪＡ全農あおもりは、６月16日の「麦とろの日」にちなんで、６月10日から14日までの５日間、山手線・横須賀線・総武線の車内ま

4

5

6

7

8

9

6月

ど上チャンネルで青森県産ながいもをアピールする動画を放映した。また、京急線車内の中づり広告、全国の量販店の店頭におけるポスターやレシピ集を活用した売り場づくりで消費拡大を図った。

7月

●2021年度県ＪＡ女性大会（７／１）写真12

県ＪＡ女性組織協議会は、青森市の県総合社会教育センターで県ＪＡ女性大会を開いた。県内各ＪＡ女性組織から100人が参加。組織活動体験発表コンクールでは、優秀賞に「Ｓ（そうま）Ｄ（だいすき）Ｇｓ（ガールズ）～女性がもたらす地域へのパワーを後世へ～」を発表したＪＡ相馬村女性部の佐久間結華里さんを選んだ。

●2021ミス・クリーンライスあおもり　川﨑さんら栄冠輝く（７／17）写真13

青森県産米需要拡大推進本部は、青森市のホテル青森で「2021ミス・クリーンライスあおもり」コンテストの最終審査を開き、五戸町の会社員、川﨑美夏さん（25）、青森市の会社員、坂本美帆さん（27）、弘前市の大学生、松本千尋さん（22）の３人が選ばれた。３人は、21年８月１日から２年間、県内外に向けて、県産米の消費拡大を目的としたＰＲ活動をしていく。

7月

●自転車交通安全教室の開催（７／19）

ＪＡ共済連青森は、県警察本部と連携してむつ市立田名部中学校で「生徒向け自転車交通安全教室」を開催した。スタントマンが危険な自転車走行に伴う交通事故場面を再現し、生徒が事故の危険性を疑似体験するというスケアード･ストレイト教育技法が使われ、生徒からは「これから夏休みに入るので車や歩行者に気を付けたい」と述べた。

8月

●ＪＡ共済健康づくり活動ＱＯＬ（啓発型）健診の開催（８／２～４）写真14

ＪＡ共済連青森は、県農協会館に勤務している各連合会職員と県内ＪＡ職員の124人を対象に「ＱＯＬ（啓発型）健診」を県農協会館で実施した。会場では、健康測定と弘前大学大学院医学研究科健康未来イノベーションセンター職員による健康教育が行われた。

●ラジオで「青森いきいきやさいセット」を紹介（８／21）写真15

ＪＡ全農あおもりは、ラジオ番組「ＪＡ全農 COUNTDOWN JAPAN」で「青森いきいきやさいセット」の魅力を発信した。同セットは、旬の野菜を厳選し８種類以上で詰め合わせするもので、何が入っているのかは開けてからのお楽しみが体験できるものとなっている。

10

11

12

13

14

15

9月

●概算金大幅下落に対する緊急要請（９／16）
写真16

ＪＡ青森中央会の雪田徹会長職務代行者と青森県農協農政対策委員会の雪田徹委員長は、青森市で自民党県連会長の江渡聡徳衆議院議員をはじめ県選出国会議員４人に、2021年産米の概算金大幅下落に係る緊急要請を行った。要請に対し、江渡議員は「米の概算金については大変憂慮している。青森県の農業を守るために、与党も野党も関係なく協力していきたい」と述べた。

●ＪＡグループ青森として初の試み　こども宅食おすそわけ便（９／26）写真17

ＪＡグループ青森と青森県農協農政対策委員会は、県社会福祉協議会を通じて、「こども宅食おすそわけ便」の利用世帯に県産米「まっしぐら」８㌧を贈呈した。青森市の社会福祉法人義栄会が運営する「こども食堂じょいん」で贈呈式を開き、ＪＡ青森中央会の会長職務代行者で、青森県農協農政対策委員会の雪田徹委員長が、義栄会の小畑敦理事長に「まっしぐら」を寄贈した。10月までには、県内60団体を通じて4,000世帯に届く予定である。

10月

●県知事要請　米の概算金大幅下落（10／７）
写真18

ＪＡ青森中央会の会長職務代行者で青森県農協農政対策委員会の雪田徹委員長は、県庁を訪問し、三村申吾県知事と三橋一三県議会議長に米の概算金大幅下落に係る支援対策を要請した。要請に対し、三村知事は「生産現場の切実な声として、しっかりと受けとめる。県としても強い危機感を持っているので、国に働きかけていくと同時に県としても必要な対策を検討していく」と述べた。

11月

●ＡＩ顔認証検温サーモカメラシステムの寄贈（11／５）

ＪＡ共済連青森は、青森県教育委員会を通じて県内小・中学校にＡＩ顔認証検温サーモカメラシステム一式を寄贈した。青森県教育委員会の和嶋延寿教育長は「感染拡大の予防はもとより、子供たちが常日頃から体調管理を習慣化できる良いきっかけとなります」と謝辞を述べた。

●プレスツアー　ＪＡおいらせ（11／16）

ＪＡ青森中央会は、六戸町と三沢市でプレス（取材）ツアーを実施し、報道関係者８人が参加した。参加者は今年の４月に稼働が始まった六戸町のナガイモ・ニンニクＣＡ冷蔵貯蔵施設を見学。参加者は「このようなハイテクな機械設備があるとは知らなかった」などと述べた。

16

17

18

輝き

ＪＡ全農あおもり
やさい部やさい花き課
澤田（さわだ）　勇生（ゆうき）　さん

●プロフィール
2019年４月から勤務　青森県青森市出身　25歳

働くきっかけは？
祖母が米農家を営んでおり、小さい頃からいやというほど手伝いをしていたのがきっかけです。

業務内容を教えて下さい。
にんにく優良種苗の生産・供給、やさい・花き生産技術指導を行っています。

働いた感想は？
にんにく・ごぼう・ながいもの掘取調査等で土まみれになることがあったりと、予想以上に肉体労働が多いことに驚いています。

仕事をする上で、日頃心がけていることは？
内外問わず、常に明るく元気でいることを心掛けています。

特技・趣味は？
現在も高校・大学でやっていたラグビーを続けています。翌日は全身筋肉痛になりますが、それも含めて好きですね。高校時代は全国大会にも出場していました。

あなたが自慢できることは？
肌の黒さです。自慢と言っていいのかわかりませんが、地黒なうえに外勤やラグビーで積み重ねているので、磨きがかかっています。高校・大学時代は年中無休で黒かったと思います。

将来の夢は？
けがや病気に気を付けて健康でいること。そのうえで働いていければと思っています。

後編記集

日本漢字能力検定協会は12月13日、2021年の世相を一字で表す「今年の漢字」を「金」に決めたことを京都市の清水寺で発表した。2000年、2012年、2016年に続き、４回目となった。

2000年は、シドニー五輪で女子マラソンの高橋尚子が陸上女子で史上初の金メダル、柔道の田村亮子も初の金メダルに輝き、2012年ロンドン五輪では金７、銀14、銅17のメダルラッシュと金環日食、消費税増税論議があり、2016年リオ五輪では金12、銀８、銅21と政治と「金」（カネ）問題に揺れた年であった。

2021年は、東京五輪・パラリンピックで日本人が金メダルを過去最多の数を獲得ということで「今年の漢字」となった。

ちなみにトップ５は以下のとおり。

２位（輪）、３位（楽）、４位（変）、５位（新）の順。どれも想像をつくようなものばかりだ。

2022年は、昨年コロナ渦の中で行けなかった初詣に必ず行き、賽銭をいつも以上に奮発し、神さまに今年の漢字の中に「幸」「豊」「旅」「生」「祝」「慶」などが採用されるようにお願いしたい。（公）

ホームページアドレス

■ＪＡ青森中央会　https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/
イベントの様子、歳時記、産直・ＪＡ情報などをご覧いただけます。

■ＪＡバンク青森　https://aomori.jabank.org/
商品・サービスのご案内のほか、マネーシュミレーションや全国のＪＡバンクへのリンク等をご覧いただけます。

■ＪＡ全農あおもり　https://www.zennoh.or.jp/am/
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。

■ＪＡ共済連青森　https://www.jakyosai-aomori.jp
ＪＡ共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。

"Ienohikari"
家の光

で イエナカ活動も
楽しく! 豊かに!!

定価(税込) ●普通月号 629円
●付録月号(1・4・5・7・9月号)922円
●家計簿付き12月号 1,027円

記事と関連した動画を配信中。
最新の動画は誌面の2次元コードから!

お申し込みはお近くのJA本・支店(所)へ

JAグループ 家の光協会 〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11 TEL 03-3266-9039 http://www.ienohikari.net